

2012年12月8日@一橋大学  
早稲田大学大学院政治学研究科  
大嶋えり子

## 【第4回 移民の参加と排除に関する日仏研究会】 フランスにおけるアルジェリア関連の「記憶の場」 —ペルピニャンとパリを中心に—

Les « lieux de mémoire » français relatifs à l'Algérie :  
Les cas Perpignanais et Parisiens

### I. 報告の目的

EUIJ 早稲田の助成を受けて、2012年8月から9月にかけて3週間フランスに滞在し、行った調査の報告

本報告ではペルピニャンとパリで行った調査を扱う

### II. 調査対象及び調査目的

#### A) 調査対象

アルジェリアの植民地支配及びアルジェリア独立戦争に関連する公的な「記憶の場」

ペルピニャン (Perpignan) の特徴=帰還者が多く移住した南仏（北カタルーニャ）の都市  
記憶の場=記憶消滅の恐れから生まれる記憶保全の意思に基づき、形成される物理的、象徴的、機能的な場（博物館、文書館、墓地、コレクション、祝祭、記念日、条約、議事録、記念碑、聖堂、結社などが記憶の場にあたるとノラは論じている）<sup>1</sup>

#### B) 調査目的

それぞれの記憶の場でどのようにアルジェリアにおける植民地支配やアルジェリア戦争が語られているのかを明らかにすること

### III. 調査内容

#### A) 在阿フランス人史料センター (Centre de Documentation des Français d'Algérie) (ペルピニャン)

南仏の都市、ペルピニャン市が所有する元修道院の建物内に設けられた史料センター  
アルジェリアニストの会 (Cercle Algérieniste) という帰還者団体の資料に基づいている

<sup>1</sup> Nora, Pierre. *Les lieux de mémoire I : La République*, Gallimard, 1984

歴史家などにより構成された学術委員会はない<sup>2</sup>

2012年1月29日にオープニングセレモニーが執り行われ、ロンゲ国防・退役軍人大臣（当時）、ピュジョル市長及びシモン＝ニケーズ副市長兼全国アルジェリアニストの会理事が参加した

**帰還者 (rapatriés)** = 「過去にフランスの統治下、保護下あるいは信託統治下にあった土地に居住しており、政治的出来事によりその土地を離れざるを得なかった、もしくは離れざるを得ないと判断したフランス人」<sup>3</sup>

**在阿フランス人 (Français d'Algérie)** = フランス支配下において使用された呼称であり、アルジェリアに在住していたヨーロッパ系フランス人

**アルジェリアニストの会** = 「危機に瀕する文化を守る」ために1973年に設立され、約1000人の会員を抱えるフランス最大の帰還者団体<sup>4</sup>

#### ◇ 死者の壁 (Mur des disparus)

アルジェリア独立戦争で命を落とし、墓のないフランス人とアルキを追悼する記念碑

2007年に、史料センターに先立ち設置された秘密軍事組織 (Organisation de l'Armée Secrète, OAS) の人物の名前が彫られており、議論を呼んでいる<sup>5</sup>

除幕式には当時国防・退役軍人大臣補佐であったマルレックスが参加した<sup>6</sup>

**OAS** = アルジェリア独立戦争時にフランス軍から派生し、戦争中にフランス本土及びアルジ



「死者の壁」

<sup>2</sup> Midi Libre. *Français d'Algérie : un centre controversé*, <http://www.midilibre.fr/2012/01/28/francais-d-algerie-un-centre-controverse,449944.php>, consulté le 3 novembre 2012

<sup>3</sup> 1961年12月26日の海外領土のフランス人の受入れと再定住に関わる法律第1条

<sup>4</sup> 足立綾「現代フランスにおける『ピエ・ノワール』—その生成とそれが目指すものに関する一試論」『白山人類学』11号、2008、p.43

ただし、「進歩派ピエ・ノワールとその友の会 (L'Association Nationale des Pieds Noirs Progressistes et leurs amis)」によれば、アルジェリアニストの会には「数千人」の会員がいるとされており、正確な会員数は把握できていない。(L'Association Nationale des Pieds Noirs Progressistes et leurs amis. *Perpignan, capitale des nostalgiques de l'Algérie française*, par Roger Hillel. (publié le 16/02/2012), <http://www.anpnpa.org/?p=754>, consulté le 4 novembre 2012)

<sup>5</sup> LDH-Toulon. *Des vivants "gravés" dans le bronze du mur des disparus*, <http://www.ldh-toulon.net/spip.php?article2533>, consulté le 4 novembre 2012

Savarese, Eric. *Rapport de recherche sur le projet de réalisation, à Perpignan, d'un site public de documentation et d'exposition sur l'Algérie: en finir avec les guerres de mémoires algériennes en France?*, Université de Perpignan, 2007

<sup>6</sup> LDH-Toulon. *Le "Mur des disparus" vu d'Algérie*, <http://www.ldh-toulon.net/spip.php?article2377>, consulté le 4 novembre 2012

エリアで殺人・テロ活動を行っていた反独立派武装組織<sup>7</sup>

**アルキ**=アルジェリアの先住民（主にアラブ人）であり、アルジェリアがフランス領としてとどまるよう補充兵として戦った者

⇒帰還者はアルキと同じ苦しみを経験したことを強調している<sup>8</sup>

#### ◇ 小規模の資料室

資料室は主にアルジェリアニストの会の会員が寄贈した図書により構成されている

⇒寄贈によるゆえに、所蔵物は多様であり、植民地支配下のアルジェリアで発行された新聞もあれば、近年フランスで発行された学術書もある



在阿フランス人史料センターの常設展

#### ◇ 常設展

フランスがアルジェリアを支配していた当時の品が、アルジェリアの歴史をたどるように時系列に展示されている

## B) オー・ヴェルネ霊園 (Cimetière du Haut-Vernet) (ペルピニャン)

ペルピニャン近郊に位置する霊園

4つの記念碑が霊園内の広場に設置されている

#### ◇ OAS メンバーを追悼する記念碑

碑文=「フランス領アルジェリア存続のために銃殺された人々と亡くなった戦士へ」

亡くなった構成員の名前が彫られている

元市長のアルデュイによれば、2003年に副市長であったピュジョルが設置の許可を出し、帰還者団体が資金を出して、設置したとのこと<sup>9</sup>

「フランス領アルジェリアで拘留された者及



OAS 構成員の慰霊碑

<sup>7</sup> Lecœur, Erwan. *Dictionnaire de l'extrême droite*, Larousse, 2007, p.35

<sup>8</sup> 加害者のイメージを被害者のイメージへと転換するための帰還者によるアルキの利用に関しては次の論文を参照されたい。

Eldridge, Claire. Blurring the boundaries between perpetrators and victims: Pied-noir community and the harki community, *Memory Studies*, 3(2), 2010, pp.123-136

<sup>9</sup> LDH-Toulon. *Jean-Paul Alduy et les opposants au "Mur des disparus"*, <http://www.ldh-toulon.net/spip.php?article2380>, consulté le 4 novembre 2012

び追放された者の精神的及び物理的利益を守る会 (Association pour la défense des intérêts moraux et matériels des anciens détenus politiques et exilés de l'Algérie française, ADIMAD)」が設置したとされている<sup>10</sup>

**ADIMAD**＝「フランス領アルジェリアに敵対した者により被害を受けた全ての殉死者及び犠牲者の記憶をあらゆる手段を用いて守ること」を目的とする 1967 年に結成された団体<sup>11</sup>



ヨーロッパ系フランス人を悼む碑

◇ ヨーロッパ系フランス人被害者を悼む碑

碑文＝「故人の本物の墓は 生きている者たちの心」

ヨーロッパ系フランス人の多くが被害に遭い、命を落とした事件の年月日と地名が彫られた三つの板が打ち付けられている

◇ 亡くなったアルキを追悼する記念碑

中央にはアルジェリア戦争で戦ったアルキ、そして、左右には第一次世界大戦と第二次世界大戦で戦ったアルキの肖像が彫られている



アルキの慰霊碑

◇ フランス連合の領土で死亡したフランス兵を追悼する記念碑

### C) 国立移民歴史館 (Cité Nationale de l'Histoire de l'Immigration) (パリ)

1931 年のパリ植民地博覧会を機に建設されたポルトドレ宮内に設置され、2007 年に公開された施設

移民の歴史を描く博物館の構想は 1990 年からすでに存在しており、2001 年から博物館開設に向けて具体的な取り組みがジョスパン内閣の下で開始された

その後、2003 年の統合関連省庁間委員会は、フランスに移民の歴史を紹介する施設が存在せず、新たな施設の開発が必要であると結論づけた<sup>12</sup>

<sup>10</sup> LDH-Toulon. *L'Adimad se bat pour "rétablir la vérité sur le juste combat de l'Algérie française"*, <http://www.ldh-toulon.net/spip.php?article747>, consulté le 7 décembre 2012

<sup>11</sup> Le Figaro. *Une plaque à la gloire d'un ex de l'OAS*, <http://www.lefigaro.fr/flash-actu/2011/06/10/97001-20110610FILWWW00634-une-plaque-a-la-gloire-d-un-ancien-de-l-oas.php>, consulté le 7 décembre 2012

Announcement du JO Associations n°20050004, annonce n°1309, 22 janvier 2005

<sup>12</sup> Dewitte, Philippe. « Un Centre d'histoire de l'immigration: Pourquoi et comment ? », *Hommes et Migrations*, n°1257, 2005

「歴史と複数の記憶を合わせたプロジェクト」が重要と位置付けられ、教育、研究及び議論の場として機能する施設が考案された<sup>13</sup>

こういった経緯を持つ施設において、本調査ではアルジェリア出身者及び彼らの歴史がどのように紹介されているかに注目した

#### D) ケ＝ブランリー美術館 (Musée du Quai Branly) (パリ)

1996年に当時大統領であったシラクのもとで創設が決定され、2006年に開設された美術館常設展には約3500点の品がオセアニア、アジア、アフリカ、アメリカの四大陸に分類され、展示されている

紀元前のものから20世紀のものにまで及んでおり、美術館の所蔵物は広範にわたっている美術館の目的は、「歴史を持っていることさえ否定され、屈辱を受け、蔑視の被害にあった民族や、苛酷な近代化により脅かされ、周辺化され、弱体化された民族」などに「敬意を表する」ことであり、世界の多元性を保全することであるとシラクは発言している<sup>14</sup> 本調査では特に、アルジェリアまたは北アフリカに関連する記述があるパネルに注目し、どのような紹介がなされているのかに焦点を合わせるようにした

#### E) アルジェリア戦争及びモロッコとチュニジアにおける戦闘の記念碑 (Mémorial National de la Guerre d'Algérie et des combats du Maroc et de la Tunisie) (パリ)

2002年に設置された記念碑

碑文＝「フランスのために北アフリカで亡くなった者と同様に、行方不明になった者とアルジェリア戦争中又は1962年3月19日以後にエヴィアン協定に反する形で虐殺並びに暴虐の被害に遭った民間人及びモロッコとチュニジアにおける戦闘で亡くなった民間人に、フランス国民は敬意を表する」

記念碑そのものは三本の柱でできており、それぞれ電光掲示が下から上へと流れるようになっており、戦死した者などの名前が表示さ



アルジェリア戦争の記念碑

<sup>13</sup> Cité Nationale de l'Histoire de l'Immigration. *Un projet en germe depuis plusieurs années*, <http://www.histoire-immigration.fr/la-cite/historique-du-projet>, consulté le 28 septembre 2012  
Cité Nationale de l'Histoire de l'Immigration. *Comité interministériel à l'intégration du 10 avril 2003*,

<http://www.histoire-immigration.fr/la-cite/historique-du-projet/comite-interministeriel-a-l-integration-du-10-avril-2003>, consulté le 28 septembre 2012

<sup>14</sup> Musée du Quai Branly. *Allocution de M. Jacques Chirac, Président de la République*, <http://www.quai-branly.fr/fr/actualites/actualites-par-rubriques/archives-des-actualites/m-jacques-chirac-president-de-la-republique-a-inaugure-le-musee-du-quai-branly/allocution-de-m-jacques-chirac-president-de-la-republique.html>, consulté le 30 septembre 2012

れている

電光掲示は左から順に青、白、赤の色で表示されており、フランスの国旗を表している

## VI. 結論

アルジェリア関連の記憶の場を通してフランスの公的機関によるアルジェリア出身者及びアルジェリア支配の過去に対する認識は以下の三点において多面的であることが本調査を通して明らかになった。

まず、帰還者やアルジェリア出身者といった多様なコミュニティに公的機関が対応する形で、多様な記憶が保全されている。すなわち、植民地主義的記憶の保全及びアルジェリア出身者の記憶を国民史に組み込む試みが見られた。

次に、都市によって公的機関が保全する記憶は異なる。上記の多様なコミュニティの分布とも密接に関連する点であるが、パリとペルピニャンの間には公的機関の対応が異なっているのである。パリにおいては国家が記憶の場を設置した主体である。いわゆる国際都市であり、フランスの首都であるパリに国家が植民地主義的記憶を保全する記憶の場を設置することはできなかったであろう。一方、ペルピニャンでは国家も記憶の場の設置に関わっているものの、帰還者団体と市が設置した主体である。そのため、ペルピニャンにおいて植民地主義的記憶を保全する施設の実現はより容易であったと推測できる。

最後に、植民地の過去を無視する行為やアルジェリア人が有する記憶を無視する行為が継続していることも分かった。積極的な記憶の場の設置と同時に植民地支配を無視する場の設置も行われているのである。したがって、ノワリエルが移民史に関して指摘した「記憶の棄却 (non-lieu de mémoire)」<sup>15</sup>が、アルジェリア人が有する植民地支配の記憶に関しても見受けられると言えるのではないだろうか。

以上の三点において、公的機関の対応が多面的であるといえる。

---

<sup>15</sup> Noiriel, Gérard. *Le creuset français: Histoire de l'immigration XIX<sup>e</sup>-XX<sup>e</sup> siècle*, Seuil, 1988